

# 出会いと思いを大切にした造形活動

～豊かに表現するための支援のあり方～

足利市立富田小学校

## I 研究主題設定の理由

### 1 今日の課題から

中央教育審議会答申においては、「生きる力」の育成を基本として、教育内容の厳選と基礎・基本の徹底を図ること、一人一人の個性を生かすための教育を推進することが、提言されている。

また、学習指導要領では、図画工作科の目標に『表現および鑑賞の活動を通して、つくりだす喜びを味わうようにするとともに、造形的な創造活動の基礎的な能力を育て、豊かな情操を養う』を掲げ、改善の方針の1つに「子供たちが自らつくり出す喜びを一層味わえるようにする」ことを挙げている。

子供たちが、もてる力を主体的、創造的に思いのままに発揮することができたら、より一層の喜びを味わいながら造形活動を行うことができるだろう。そのような児童の育成が、私たちの使命だろうと考える。そして、その思いを表現するために必要な、基礎的な技能を身に付けていくことも、これまた大切なことだと考えている。

学習指導要領の意図するところを十分に汲み取り、指導していくことが今求められており、そのためには、私たち教師自身も学ぶことが必要である。

### 2 児童の実態及び教師の願いから

本校の児童は、図画工作科が好きな子が多く、自由に自分の思いのままに活動することを好む傾向がある。真剣に活動する姿も多く見られるが、題材によっては、アイデアがわからず手が止まってしまうという児童もいることが、教師の授業中の観察やアンケート調査結果からもわかった。

素直な子が多く、やるべきことはきちんと行動するが、自ら考え主体的に行動することがやや苦手と思われる。そのようなことが反映しているのか、自由に独創的な発想をもって取り組むことに乏しい面が見られることも、日頃の私たちの反省にあった。

私たちは、そのような児童に、図画工作科においても生き生きと自信をもって活動して欲しいと願っている。一人一人が自分らしさを十分に発揮して欲しいと願っている。児童が自分の特徴に気づいたり、児童同士がお互いのよいところを見つけ合ったりしながら楽しく活動できるように、児童と関わろうと考えた。

## II 研究主題の捉え方

研究主題における【出会い】と【思い】については、次のように捉えることにした。

材料らしき物がそこにあればさわりたいくなり、さわっているうちに何か形あるものを作りたくなるのは、本能的な営みであろう。「さわったらどんな感じかな」「こうしたらどうかな」「こんなものがあつたらいいな」という気持ちや願いを抱きながら材料に向かう。こんな気持ちや願いを【思い】と捉えることにした。

また、活動を通して、材料や技法と出会い、活動場所と出会い、さまざまな作品と出会い、担任や友達と出会い、新たな自分と出会う。そして、そこからまた思いをめぐらし新たな発想が生まれ、次の活動意欲へとつながる。迷い、悩み、試行錯誤しながら自分の思いを表現していく。だから、【出会い】を大切にしていきたい。

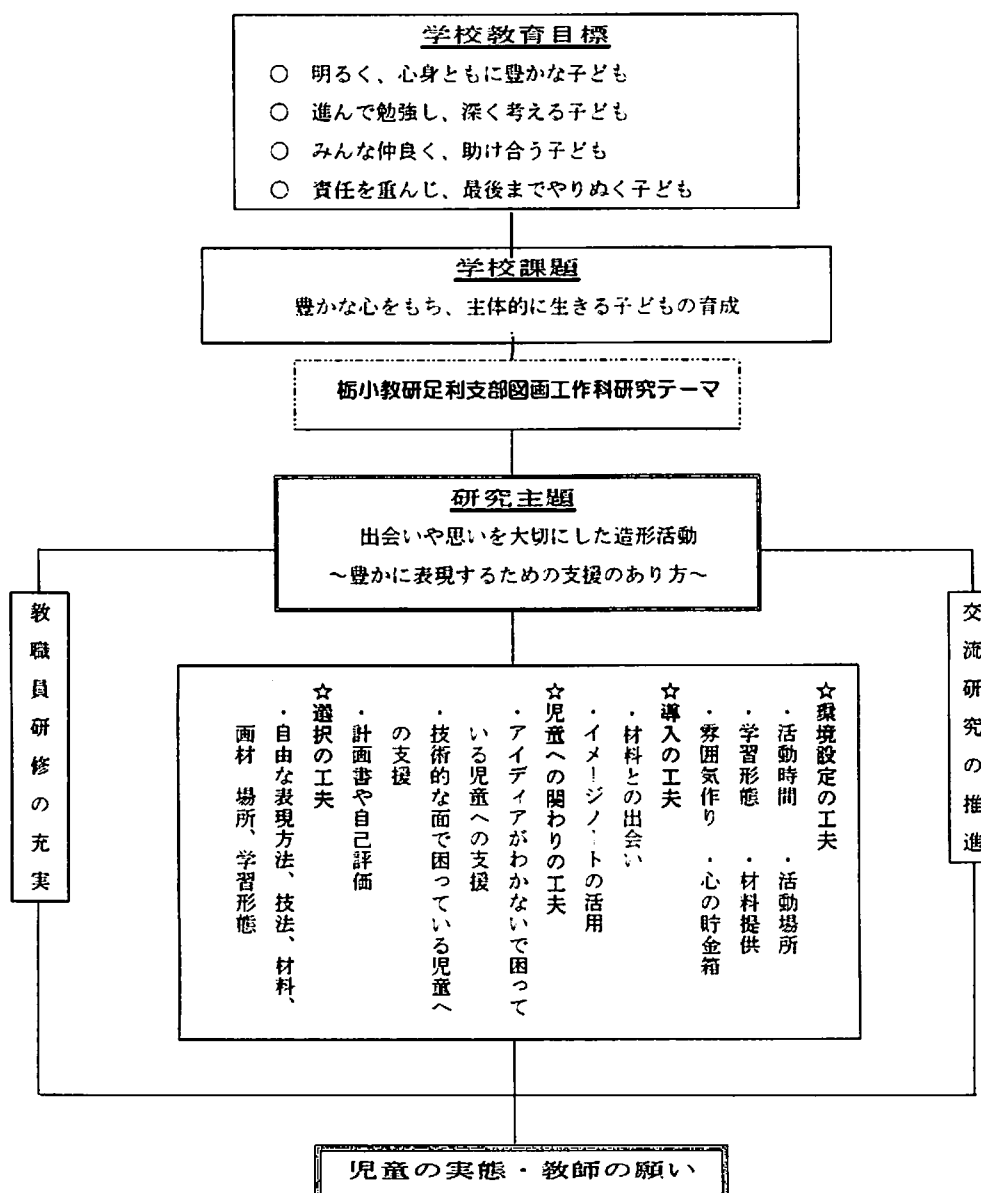
私たちは、【出会い】と【思い】が、すべての造形活動のもととなる大事なものであると考えた。材料との素敵な出会いが思いを確かなものにし、また、その思いを実現させるためにあれこれと材料を探す。思いをどうもたせ育てていくのか、何とどういう出会いをさせるのか、より力強く、より大胆に、より豊かに、より自分らしく表現するには、児童とどう関わればよいのか支援のあり方を探っていきたいと考えた。

### III 研究の概要

#### 1 研究の基本方針

- (1) 授業実践を通して、研究主題の解決を図ることとする。
- (2) 感性豊かな児童の育成を図るとともに、児童が互いのよさを認め合い、児童と児童、児童と教師のよりよい関係が築けるようにする。

#### 2 研究主題解決のための全体構想



### 3 研究の実際

#### (1) 推進のための4つの方策

児童が「豊かに表現する」ための支援として、次の4つの方策を考えた。

##### ア 環境設定の工夫

児童をやる気にさせるという意味で、どのような環境で授業を行うのか、大切なことであると考えた。

###### <活動時間>

本校のノーチャイム制の利点を生かし、1単位時間の枠にとらわれない活動や2時間続き2日間連続の活動など、図工の時間を1箇所に集中させるなど、できるだけ児童の思いや活動が継続するように設定した。

###### <活動場所>

題材にあった空間を、活動場所として考えた。展示までも考えて、校庭の藤棚の下での活動を設定したこともあった。

###### <学習形態>

同じような種類のものを作る場合は一緒のグループを作って活動するなど、楽しくそして刺激しあいながら活動ができるように配慮した。

###### <材料提供>

児童は使いたいものを家から持ってくるが、学校としても、児童が自分の思いに合った材料を使って表現することができるように準備した。コーナーを作って、常時用意しておいた材料もあり、その中から自由に選ばせた。どういう材料を使うかは、学年や題材に応じて配慮した。

###### <雰囲気作り>

児童が、気持ちよく活動できるように、題材に合った雰囲気の音楽を流すなどの工夫をした。また、試作品を作って置いておくなど困ったときの参考になるようにした。

###### <心の貯金箱：廊下の一郭を使った作品展示コーナー>

児童がさまざまな作品にふれること、作品を見て何かを感じ心を動かされたりすることも、豊かな表現につながる大事なことと考え、さまざまなジャンルの作品を展示した。(詳しくは、後述を参照)

##### イ 導入の工夫

1時間、そして単元全体を通して興味をもたせ、活動意欲を喚起できるという意味で、導入は特に工夫したいところである。

###### <材料との出会い>

この題材では、この材料を使わせたいという担任の思いを込めたり、活動への意欲を沸かせるため材料との出会いを工夫した。『キラキラワールド』(4年)では、担任がアルミホイルで作ったブローチを身に付けて登場して興味をもたせたり、『ふわふわランドであそぼう』(2年)を行ったときは、部屋をふわふわする物でいっぱいにしておいて、児童を驚かせたりした。

###### <イメージノートの活用>

日頃から思いついたアイデアをノートに書き留めておき、その中からふさわしいものを選ぶといった方法をとることもあった。

##### ウ 児童への関わりの工夫

児童が持ち味を十分に生かし自信をもって活動するには、教師は児童とどのよう

に関わればよいのか、児童一人一人の気持ちを考えた支援の必要がある。何を作ったらよいかで迷っているのか、表現方法がわからないのか、材料が見つからないのか、作業が進まない児童の原因が何かを探ることが肝心であり、それによってアドバイスも変わってくる。何を必要としているかの見極めが非常に難しいところだが、本研究の最も重要な所でもある。

#### < アイディアがわからないで困っている児童への支援 >

わからないところや教えて欲しいことを自分から言う児童ばかりではないので、作業が進まない児童がいたら、その児童をよく観察したりそばに行き話しかけたりして、原因を探ることに努める。

「おもしろい形ができたね。」などとまず、その子の活動やよいところを認めることも大事である。学年や児童によってアドバイスの仕方も変わってくるので、接し方については特に配慮したいところである。安易に、「～してみたら。」などと言えないことも多い。

教師が予め試作品を作ること、活動途中で鑑賞の時間を取り入れることは、活動のヒントを得る機会となり、効果的であろうと思われる。

#### < 技術的な面で困っている児童への支援 >

接着の仕方などがわからなくて作業が進まない児童に対しては、全体の場や小集団でタイミングを逃がさず基礎的な技能の指導をすることにする。

#### < 計画書や自己評価 >

個々の児童が、どのような思いをもっているのかどのような考えをもって活動していこうとしているのかをより詳しく知るために、事前に計画書を作成しておくこともあった。児童の思いが捉えやすくなり、個々にあった支援がしやすくなることから、有効な方法であると考えている。

また、本時の活動がどうであったか、自分の思いに向かっているかどうか、活動の区切りに児童の自己評価も取り入れていこうと考えた。

#### < 伝説の島「スターアイランド」3年 計画書 >

1. どんな島でつくりたいか、1つはなんでもかまわない。

2. どんな材料でつくりたいか、1つはなんでもかまわない。

紙や布、ペットボトル、紙わん、木

3. スターアイランドの島にどんなものがあってもいいか。

## エ 選択の工夫

児童が、自分の考えで表現方法や技法・材料・学習場所・グループ等を自由に選ぶことで、より自分の思いを表現することができるように考えた。

#### < 自由な表現方法、技法、材料、画材、場所、学習形態 >

児童が、自分の思いを表現するのに1番合った表現方法や技法・材料・画材を選んだり、活動場所や展示場所を選んだり、グループを作って活動に取り組んだりすることを積極的に取り入れるようにした。

## (2) 教師自身の研修

今までの図工の考え方から、創造性を大切にする図工への転換へと、意識を改革するために私たち教師自身も研修に取り組んできた。

平成14年度は、夏休みに実技研修を行った。教科指導員である北中学校の小林真由美先生を講師として「イメージと発想」という題で、様々なイメージがもてるような導入の方法について講話をいただいた。その後で、お花紙を使って、これまであまり経験のなかった『造形遊び』を行った。お花紙を、ただ丸めたり裂いたりするうちに、いろ

いろいろな形を作り上げていった。中には、なかなかイメージがわからず苦勞する場面もあり、児童の気持ちがよくわかったという先生もいた。

また、15年度も夏休みに実技研修を行った。今年は、2学期に予定している題材について試作品作りを行った。児童がどういう所でつまずきやすいかが分かり、有意義であった。いろいろなアイデアも浮かべることができた。新しい図工材料や道具の使い方なども確認することができた。

実技研修のほかに、公開研究会などに参加して、先進校視察も行った。授業の流れや考え方などもよく分かり授業に生かすことができた。

### (3) 心の貯金箱

自分の思いを大切にし豊かに表現するためには、様々な作品との出会いが大切であると考え、児童が自由に見たり参加したりできるようなコーナーを設置した。

#### 【ねらい】

- ・様々な作品を鑑賞することにより、造形感覚や美意識を高める。
- ・作品に対する、自分の見方や考え方を率直に書けるような主体性を培う。
- ・自分と友達の感じ方や好みの違いに気づき、お互いを認め合う。
- ・身の回りの美しいものやおもしろいものに興味をもつ。

#### 【活動内容】

- ・作品について、付箋に自由に感想を書いて貼る。(色、形、構成、画材、素材、触り心地などいろいろな観点から)
- ・感想だけでなく、作品に自分で考えた題名をつけてみる。

#### 【取り上げた作品の例】

- ・山下清の作品      ・安藤勇寿の作品      ・だまし絵      ・カード
- ・パソコンで描いた絵      ・Tシャツのデザイン      など

はじめは、作品の感想や題名を考えて書く活動だけであったが、児童が慣れてきたところで、作品を見て自分でだまし絵を描いたり、Tシャツをデザインしたりするなど、活動の幅を広げていった。

児童も、最初は作品について「きれい」「かわいい」など、抽象的な感想しか書かなかったが、最近では、「〇〇の部分の描き方がおもしろい。自分でも描いてみたい。」「色づかいが秋の雰囲気」など、作品をじっくりと見て心に感じたことを書くようになった。デザインや作品を見ても、心の貯金箱で鑑賞したことを自分の作品づくりに生かす子が増えてきた。

### (4) 材料の収集・作品の保管について

#### ア 材料の収集・保管

児童の豊かな表現を支える上で、豊富な材料やその材料との出会いは重要である。児童に造形への意欲を高めさせ、自分の思いに合った材料を自由に選んで生き生きと活動させたいと考え、保護者に協力を呼びかけて、空き容器・ダンボール・布・ひもなど様々な図工素材を集め、図工室や近くの部屋に材料コーナーを設置した。

単元の導入部分では、造形遊びの場面を多く設定した。豊富な素材と出会った児童は、手触りを確かめたり、色を組み合わせたり、つなぎ合わせたりと、五感を使って造形遊びを思う存分楽しみ、表現する喜びを体全体で感じ取ることができた。

#### イ 作品の展示・保管

こうしてでき上がった児童の作品は、よりたくさんの友達が鑑賞できるように掲示板や廊下・オープンスペース等に展示した。児童は、友達の作品から刺激を受け、制作意欲を高めたり、発想を広げたり、様々なヒントを得ることができた。残しておけない作品については、デジタルカメラで記録した。

#### IV 実践例 2年 題材名「へんしんするへや」 つくりたいものをつくる

- 1 目標 (造形への関心・意欲・態度) 友達とかかわり合いながら、体全体を働かせて、活動することを楽しむ。  
 (発想や構成の能力) どんなふうに変身させるか、イメージを豊かにふくらませる。  
 (創造的な技能) 材料選択や制作方法など自分らしい表し方を工夫する。  
 (鑑賞の能力) 場の変身を友達と一緒に楽しむ。

#### 2 題材の指導計画及び評価計画 (総時数 11 時間) 本時 7 / 11

時	ねらい	主な学習活動	教師の支援	評価計画
1 2	・ランチルームをどのように変身させるか、イメージをふくらませる。	ランチルームをへんしんさせるには? ・どんなランチルームにしたいか話し合う。 ・作りたい物別のグループに分かれ、設計図をかく。	・楽しく給食が食べられるように、ランチルームを変身させようと呼びかける。 ・どんなランチルームにしたいか話し合う時間をとることにより、イメージをふくらませたい。	(関・意・態) ・ランチルームを変身させることに意欲が持てたか。 (表情・つよき・発声) (発想や構想の能力) ・イメージを豊かにふくらませ設計図をかくことができたか。(活動・つよき・表情・設計図) (創造的な技能)
3 4 5 6	・材料選択や制作方法など工夫して飾りを作る。	グループごとにかざるものを作ろう。 予想されるグループ ○花・折り紙・スポンジ ○スタンドグラス・スプレー ○ローラー・スタンプ・葉	・児童も使いたい物を準備するが、教師もできるだけ児童の思いに添うよう材料を用意しておく。 ・ランチルームの広さを考えて飾りを作るよう助言する。	・材料選択や制作方法など工夫して飾りを作ることができたか。 (活動・表情・作品)

#### 3 研究主題との関わり

##### (1) 環境設定の工夫

- ・児童の思いを大事にし、やりたい飾りごとのグループを作る。
- ・児童の飾りが映えるようランチルームを真っ白にしておく。
- ・集合の時には音楽をかけて、楽しい雰囲気の中で活動できるようにする。
- ・学習の流れが分かり、興味が持続するよう学習計画と設計図を掲示する。
- ・いつも見慣れている空間にまったく違った形で出会い、自分達の活動によって空間を変身させ、友達と共に活動し共感し合い楽しさを共有する思いを大切にしたい。



<展開>

◎人権教育上の配慮事項

具体目標	学習活動	時間形態	教師の支援	評価
○本時の活動のめあてが分かる。	1 題材名を見て学習内容を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;">ランチルームをへんしんさせよう</div>	2 一斉	・飾りが映えるようランチルームを真っ白にしておき児童に出会わせる。 ・題材名を掲示しておくことにより、本時のめあてを明確にする。 ・本時から、ランチルームを変身させる活動を行うことを話し、やる気を喚起する。	
○今日の活動計画を発表する。	2 今日の活動計画を発表する。	3	・それぞれのグループに今日の計画を発表させることにより、活動の意欲を高める。 (予想されるグループ: ステンドグラス・スプルー・花・折り紙・スポンジ・ローラー・スタンプ・葉)	
○友達と一緒にランチルームを変身させる活動を楽しむ。	3 ランチルームを飾りつける。	3 5	・一人一人に、事前に振り返りカードでアドバイスをしたり、励ましたりしておく。 ・安全のため、児童の届く高さまで飾るよう話す。 ・配置等工夫して飾るよう助言する。 ・飾ってみて足りない物や作りたくなかった物を作るよう、材料を準備しておく。 ・児童の様子を見ながら、少人数支援を行う。 ・本時は、絵の具の色は単色を使うことを約束しておく。	○友達と一緒にランチルームを変身させる活動を楽しんでいたか。(活動・表情・自己評価)
○工夫して飾り付ける。			◎グループの友達と協力して活動できるよう助言する。 ・時間になり音楽をかけたなら、集合するよう約束しておく。	○工夫して飾り付けていたか。(活動・表情・作品・自己評価)
○今日の活動を振り返り、お互いのよさに気づく。	4 今日の活動を振り返る。	5	・今日の活動は、どうだったか振り返りカードに記入させ、発表させる。 ・ランチルームを見渡し、他のグループのよい所を発表させる。 ・次時も続きをやり、その次の2時間は、他の飾り付けがやりたくなったらやってもよいことを話す。 ・みんなの力でランチルームが変身し、給食を食べるのが楽しみであり、また他の学年の人も喜んでくれることなど話し意欲を持続させたい。	

V 研究の成果と今後の課題

図工科における、一人一人を認め個性を重んじ伸ばしていくという考え方は、学習指導要領の目指すところそのものであり、学校教育全体の基盤をなす考え方そのものであることを再確認しながら研究を進めてきた結果、次のような成果と課題を得たと考えている。



## 1 成果

- ・ 個を生かし互いを認めていくことを推し進めていった結果、児童が真剣に取り組む姿が見られたり、学級の人間関係が円滑になっていくことを感じ取ることができるなど、図画工作科が学級経営にも大いに役立っていることを実感した。
- ・ 4つの方策を実践すると、児童の活動意欲が増すことが感じ取れた。
- ・ 児童が困りそうなところやそのときどんな支援が有効かを、いつも考えて取り組むようになった。
- ・ 1度体験した技能や表現方法を、その後自信をもって使いこなしていく児童の姿が見られるようになった。
- ・ 私たち自身が、作るということ自体を楽しんだり、つまづくという体験をしたりしたことが、その後の指導に役立った。
- ・ 先進校視察や実技研修を含む教職員研修を通して、今本校の児童に大切なことは何か、目指す図画工作科の指導法を勉強できた。

## 2 課題

- ・ 何を作ったらよいかわからず困っている児童への、最も適切な支援の見極めが難しい。今後も研修を積み重ねていく必要がある。
- ・ 児童の思いを大切にす指導の中に、基礎的な技能が身につく指導をどう組み入れていくか、これからの課題でもある。
- ・ 作品からは到底推しはかれない、活動中の評価（場面と規準）が非常に難しい。児童の活動の見取りを的確に行う必要がある。
- ・ ねらいに合った材料を、どう選択させるかが難しい。その学年が過去に取り組んだ活動や扱った材料を調べておくことも必要である。

短い研究期間ではあったが、これを機に、豊かな表現・豊かな人間性の育成を目指して、今後も図画工作科学習の指導に取り組んでいきたいと考えている。

## 評

児童一人一人は、それぞれのよさや可能性をもつかけがえのない有能な存在であり、一人一人がもてる力を十分に発揮できるようにするとこはきわめて大切であると考えます。

富田小学校では、上記のような考え方から、出会いと思いを大切にした造形活動を目指しました。「さわったらどんな感じかな」、「こんなものがあつたらいいな」という思いを抱きながら材料に向かう。活動を通して児童は、材料や技法、さまざまな作品と出会い、新たな自分とも出会う。そんな【出会い】や【思い】を大切に、児童の思いをより豊かに、より自分らしく表現するには、児童とどう関わればよいのか支援のあり方についての研究に取り組みました。

具体的には、児童が「豊かに表現する」ために、以下の方策に取り組みました。

- どのような環境で授業を行うのか（環境設定の工夫）
- 活動意欲を喚起させるための導入の工夫
- 児童一人一人の気持ちを考えた支援のあり方（児童への関わりの工夫）
- 自分の考えで表現方法や材料などを自由に選ぶことのできる選択の工夫

この結果、児童の活動意欲が増し真剣に取り組む姿が見られた、人間関係が円滑になり学級経営にも役立った、教職員実技研修のとき、つまずくという体験をしたことが、その後の指導に役立った等の成果が報告されています。

今後とも児童が自分の特徴に気づいたり、児童同士がお互いのよいところを見つけあったりしながら楽しく活動できるよう、図画工作科の一層の充実を期待します。